

ダイワ厳選 コモディティ・ファンド (ダイワ投資一任専用)

運用報告書(全体版) 第5期

(決算日 2026年6月15日)
(作成対象期間 2025年6月17日～2026年6月15日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）		
信託期間	無期限（設定日：2021年9月17日）		
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。		
主要投資 対 象	ベビーファンド	ダイワ厳選コモディティ・マ ザーファンドの受益証券	
	ダ イ ワ 厳 選 コモディティ・ マザーファンド	イ. 商品先物取引 ロ. 商品先渡取引 ハ. 商品価格への連動をめ ざす E T F（上場投資信 託証券） ニ. 商品価格への連動をめ ざす E T N（上場投資証 券） ホ. 米国国債	
組入制限	ベ ビ ー フ ァ ン ド の マザーファンド組入上限比率		無制限
	マ ザ ー フ ァ ン ド の 株 式 組 入 上 限 比 率		
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。		

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することで、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の9:00～17:00）
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	投資証券 組入比率	商品先物 比 率	純 資 産 総 額
	(分 配 落)	税 込 分 配 金	期 中 騰 落 率					
1 期末（2022年 6 月15日）	円 16,038	円 0	% 60.4	% 59.4	% —	% —	% 101.1	百万円 339
2 期末（2023年 6 月15日）	14,335	0	△ 10.6	68.6	—	—	98.3	741
3 期末（2024年 6 月17日）	19,012	0	32.6	69.6	—	—	100.3	1,949
4 期末（2025年 6 月16日）	20,543	0	8.1	67.2	—	—	98.9	2,055
5 期末（2026年 6 月15日）	31,697	0	54.3	70.9	—	—	100.3	3,280

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注2) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注4) 先物比率は買建比率－売建比率です。
(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期 首：20,543円
期 末：31,697円（分配金 0 円）
騰落率：54.3%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券を通じて、商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行った結果、商品市況が上昇したことなどから、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	投 資 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率
		騰 落 率				
(期 首) 2025年 6月16日	円 20,543	% —	% 67.2	% —	% —	% 98.9
6 月末	20,178	△ 1.8	68.9	—	—	99.9
7 月末	21,740	5.8	65.5	—	—	99.8
8 月末	21,193	3.2	64.0	—	—	100.2
9 月末	22,243	8.3	66.5	—	—	98.8
10月末	23,826	16.0	62.9	—	—	99.5
11月末	24,231	18.0	67.7	—	—	100.1
12月末	24,318	18.4	65.5	—	—	99.8
2026年 1 月末	27,869	35.7	59.6	—	—	99.8
2 月末	26,733	30.1	62.4	—	—	99.7
3 月末	32,321	57.3	63.6	—	—	100.3
4 月末	34,036	65.7	63.1	—	—	100.1
5 月末	32,795	59.6	66.5	—	—	99.7
(期 末) 2026年 6月15日	31,697	54.3	70.9	—	—	100.3

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2025. 6. 17 ~ 2026. 6. 15)

■商品市況

商品市況は上昇しました。

商品市況は、当作成期首から2026年 1 月にかけて貴金属が上昇したことや、2026年 3 月以降にエネルギー銘柄が上昇したことを受け、上昇しました。

原油（WTI）は、イスラエルとイランの停戦期待が高まったことから、当作成期首より下落しました。2025年 7 月以降は、世界的な需給は緩和方向との見方が優勢となり、2025年末にかけて上値の重い展開が続きました。2026年に入ると、イランをめぐる地政学リスクの高まりから上昇基調となりました。2 月後半には中東情勢の緊張が急速に高まり、これを受けて供給リスクへの警戒感が強まったことから、3 月以降は価格が急上昇しました。5 月以降は、米国とイランの協議進展への期待を背景に供給懸念が後退し、下落基調となって当作成期末を迎えました。

貴金属は、F R B（米国連邦準備制度理事会）による利下げや工業用需要の増加を受けて、当作成期首から2026年 1 月にかけて大幅に上昇しました。2 月後半以降は、原油高に伴うインフレ懸念を背景とした、米国長期金利の上昇や米ドル高の進行から、上昇幅を縮小しました。

■為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、米国の利下げ期待が後退したことや、日本の参議院議員選挙を前に財政拡張懸念が強まったことなどから、円安となりました。しかし2025年8月初旬には、米国の軟調な雇用統計などを受けて同国の利下げ期待が高まったことで金利差縮小が意識され、急速に円高となりました。その後はおおむねレンジでの推移が継続しましたが、10月以降は、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年1月には、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測を受けて、円高が進行しました。2月は、米国財務長官による強い米ドル政策を支持する発言や、高市首相が日銀の利上げに難色を示したとの報道などを受けて、円安となりました。4月末から5月上旬には、日本が円買いの為替介入を実施したことで、円高が進行しました。5月中旬にはホルムズ海峡の封鎖長期化への懸念による原油高が円安米ドル高要因となり、5月下旬には米国とイランの戦闘終結期待による市場心理の改善などを背景に、当作成期末にかけて円安となりました。

■米国短期金融市況

米国の短期国債利回りはF R B（米国連邦準備制度理事会）による利下げを受けて、低下しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

■ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

引き続き、主に商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行います。

ポートフォリオについて

(2025. 6. 17 ~ 2026. 6. 15)

■当ファンド

「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券の組入比率を高位に維持しました。

■ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

主に商品先物取引に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、信託財産の成長に資することを目的に、収益分配を見送らせていただきました。
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2025年6月17日 ～2026年6月15日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	21,697

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態でも高に維持することを基本とします。

■ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

引き続き、主に商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行います。

1 万口当りの費用の明細

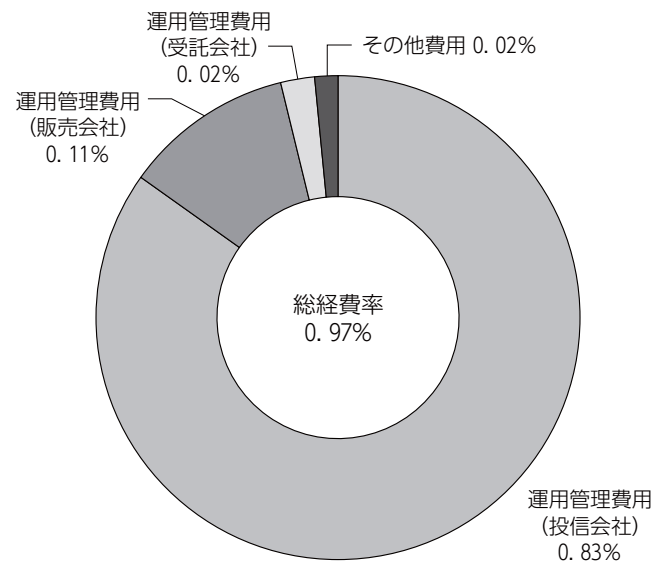
項 目	当 期 (2025. 6. 17～2026. 6. 15)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	247円	0. 954%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は 25, 832円です。
（投 信 会 社）	(213)	(0. 823)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(28)	(0. 110)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(6)	(0. 022)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	21	0. 082	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(21)	(0. 082)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	4	0. 015	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(1)	(0. 005)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(2)	(0. 008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(1)	(0. 002)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	272	1. 052	

- (注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
- (注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注 3) 各比率は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第 3 位未満を四捨五入してあります。
- (注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1 万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.97%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2025年6月17日から2026年6月15日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド	364,666	967,300	343,160	1,023,260

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■投信会社（自社）による当ファンドの設定・解約および保有状況

当作成期首保有額	当作成期中設定額	当作成期中解約額	当作成期末保有額	取 引 の 理 由
百万円	百万円	百万円	百万円	
50	—	50	—	当初設定時における取得とその処分

(注1) 金額は元本ベース。
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド	950,272	971,777	3,278,194

(注) 単位未満は切捨て。

* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

■投資信託財産の構成

2026年6月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド	3,278,194	99.4
コール・ローン等、その他	18,251	0.6
投資信託財産総額	3,296,446	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。
 (注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、6月15日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝160.18円です。
 (注3) ダイワ厳選コモディティ・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（3,247,890千円）の投資信託財産総額（3,790,348千円）に対する比率は、85.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年6月15日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	3,296,446,455円
コール・ローン等	18,251,667
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド（評価額）	3,278,194,788
(B) 負債	15,668,196
未払信託報酬	15,534,364
その他未払費用	133,832
(C) 純資産総額（A－B）	3,280,778,259
元本	1,035,033,691
次期繰越損益金	2,245,744,568
(D) 受益権総口数	1,035,033,691口
1万口当り基準価額（C／D）	31,697円

* 期首における元本額は1,000,647,443円、当作成期間中における追加設定元本額は496,440,417円、同解約元本額は462,054,169円です。
 * 当期末の計算口数当りの純資産額は31,697円です。

■損益の状況

当期 自2025年6月17日 至2026年6月15日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	44,140円
受取利息	44,140
(B) 有価証券売買損益	984,433,766
売買益	1,262,674,283
売買損	△ 278,240,517
(C) 信託報酬等	△ 26,812,095
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	957,665,811
(E) 前期繰越損益金	206,976,011
(F) 追加信託差損益金	1,081,102,746
(配当等相当額)	(676,317,573)
(売買損益相当額)	(404,785,173)
(G) 合計（D＋E＋F）	2,245,744,568
次期繰越損益金（G）	2,245,744,568
追加信託差損益金	1,081,102,746
(配当等相当額)	(676,317,573)
(売買損益相当額)	(404,785,173)
分配準備積立金	1,164,641,822

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
 (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
 (注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	44,140円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	957,621,671
(c) 収益調整金	1,081,102,746
(d) 分配準備積立金	206,976,011
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	2,245,744,568
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	2,245,744,568
(h) 受益権総口数	1,035,033,691口

ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

運用報告書 第5期（決算日 2026年6月15日）

（作成対象期間 2025年6月17日～2026年6月15日）

ダイワ厳選コモディティ・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

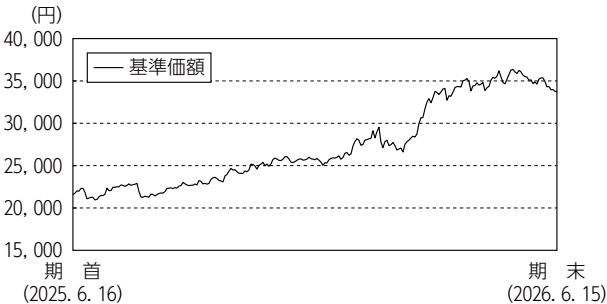
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	イ. 商品先物取引 ロ. 商品先渡取引 ハ. 商品価格への連動をめざすETF（上場投資信託証券） ニ. 商品価格への連動をめざすETN（上場投資証券） ホ. 米国国債
株式組入制限	無制限

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	投資証券 組入比率	商品先物 比 率
	円	%				
(期 首) 2025年6月16日	21,616	—	67.3	—	—	99.0
6 月 末	21,240	△ 1.7	68.9	—	—	100.0
7 月 末	22,907	6.0	65.5	—	—	99.9
8 月 末	22,352	3.4	64.0	—	—	100.3
9 月 末	23,480	8.6	66.5	—	—	98.8
10 月 末	25,176	16.5	62.9	—	—	99.5
11 月 末	25,630	18.6	67.8	—	—	100.2
12 月 末	25,744	19.1	65.5	—	—	99.9
2026年1 月 末	29,545	36.7	59.6	—	—	99.8
2 月 末	28,369	31.2	62.4	—	—	99.8
3 月 末	34,338	58.9	63.7	—	—	100.3
4 月 末	36,184	67.4	63.1	—	—	100.1
5 月 末	34,890	61.4	66.6	—	—	99.8
(期 末) 2026年6月15日	33,734	56.1	70.9	—	—	100.4

(注1) 騰落率は期首比。
(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注3) 先物比率は買建比率－売建比率です。
(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：21,616円 期末：33,734円 騰落率：56.1%

【基準価額の主な変動要因】

商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行った結果、商品市況が上昇したことなどから、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆投資環境について

○商品市況

商品市況は上昇しました。

商品市況は、当作成期首から2026年1月にかけて貴金属が上昇したことや、2026年3月以降にエネルギー銘柄が上昇したことを受け、上昇しました。

原油（WTI）は、イスラエルとイランの停戦期待が高まったことから、当作成期首より下落しました。2025年7月以降は、世界的な需給は緩和方向との見方が優勢となり、2025年末にかけて上値の重い展開が続きました。2026年に入ると、イランをめぐる地政学リスクの高まりから上昇基調となりました。2月後半には中東情勢の緊張が急速に高まり、これを受けて供給リスクへの警戒感が強まったことから、3月以降は価格が急上昇しました。5月以降は、米国とイランの協議進展への期待を背景に供給懸念が後退し、下落基調となって当作成期末を迎えました。

貴金属は、F R B（米国連邦準備制度理事会）による利下げや工業用需要の増加を受けて、当作成期首から2026年1月にかけて大幅に上昇しました。2月後半以降は、原油高に伴うインフレ懸念を背景とした、米国長期金利の上昇や米ドル高の進行から、上昇幅を縮小しました。

○為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、米国の利下げ期待が後退したことや、日本の参議院議員選挙を前に財政拡張懸念が強まったことなどから、円安となりました。しかし2025年8月初旬には、米国の軟調な雇用統計などを受けて同国の利下げ期待が高まったことで金利差縮小が意識され、急速に円高となりました。その後はおおむねレンジでの推移が継続しましたが、10月以降は、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年1月には、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測を受けて、円高が進行しました。2月には、米国財務長官による強い米ドル政策を支持する発言や、高市首相が日銀の利上げに難色を示したとの報道などを受けて、円安となりました。4月末から5月上旬には、日本が円買いの為替介入を実施したこと、円高が進行しました。5月中旬にはホルムズ海峡の封鎖長期化への懸念による原油高が円安米ドル高要因となり、5月下旬には米国とイランの戦闘終結期待による市場心理の改善などを背景に、当作成期末にかけて円安となりました。

○米国短期金融市況

米国の短期国債利回りはF R B（米国連邦準備制度理事会）による利下げを受けて、低下しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

引き続き、主に商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行います。

◆ポートフォリオについて

主に商品先物取引に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今の運用方針》

引き続き、主に商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行います。

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (先物・オプション)	23円 (23)
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用) (その他)	2 (1) (1)
合 計	24

(注 1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。
(注 2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■先物・オプション取引状況等
先物取引の銘柄別取引・残高状況

(2025年 6 月17日から2026年 6 月15日まで)								
銘 柄 別			買 建		売 建		当 作 成 期 末 評 価 額	
			新 規 買付額	決済額	新 規 売付額	決済額	買建額	売建額 評価損益
外 商 国 品			百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
		GOLD 100 OZ (アメリカ)	3, 107	2, 847	—	—	678	— △ 75
		SILVER (アメリカ)	994	1, 077	—	—	—	— —
		NY HARB ULSD (アメリカ)	3, 127	3, 092	—	—	316	— △ 12
		WTI CRUDE (アメリカ)	1, 726	1, 956	—	—	—	— —
		SOYBEAN (アメリカ)	1, 635	1, 535	—	—	335	— △ 0
		COPPER (アメリカ)	3, 338	3, 265	—	—	677	— — 4
		BRENT CRUDE (イギリス)	2, 402	2, 493	—	—	303	— — △ 12
		SUGAR NO. 11 (アメリカ)	—	195	—	—	—	— — —
		LIVE CATTLE (アメリカ)	1, 757	1, 473	—	—	339	— — △ 7
		LEAN HOGS (アメリカ)	224	415	—	—	—	— — —
		COFFEE C (アメリカ)	1, 827	1, 496	—	—	334	— — 17
		GAS OIL (イギリス)	3, 366	3, 588	—	—	304	— — △ 16

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
公 社 債

(2025年 6 月17日から2026年 6 月15日まで)								
当			期					
買 付			売 付					
銘 柄		金 額	銘 柄		金 額			
		千円			千円			
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2027/1/21		491, 410	U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2026/6/11		214, 501			
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2026/10/29		471, 235						
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2026/8/6		460, 372						
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2027/3/18		431, 319						
TREASURY BILL (アメリカ) 2027/5/13		387, 126						
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2026/6/11		190, 888						
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2026/2/12		170, 801						

(注 1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
(注 2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表
(1)外国（外貨建）公社債（通貨別）

作 成 期	当 期				未			
区 分	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	うち B B 格 以下組入 比	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦貨換算金額			5 年以上	2 年以上	2 年未満
アメリカ	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
	14, 800	14, 514	2, 324, 956	70. 9	—	—	—	70. 9

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注 2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注 3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。
(注 4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2)外国（外貨建）公社債（銘柄別）

当期末											
区 分		銘 柄	種 類	年利率	額 面 金 額	評 価 額		償還年月日			
						外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額				
アメリカ		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	千アメリカ・ドル 3, 200	千アメリカ・ドル 3, 183	千円 509, 876	2026/08/06			
		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	3, 100	3, 059	490, 052	2026/10/29			
		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	3, 200	3, 134	502, 020	2027/01/21			
		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	2, 800	2, 721	435, 879	2027/03/18			
		TREASURY BILL	国債証券	—	2, 500	2, 416	387, 126	2027/05/13			
合 計	銘柄数	5銘柄									
	金 額				14, 800	14, 514	2, 324, 956				

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注 2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

■投資信託財産の構成

2026年 6 月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	2, 324, 956	61. 3
コール・ローン等、その他	1, 465, 392	38. 7
投資信託財産総額	3, 790, 348	100. 0

(注 1) 評価額の単位未満は切捨て。
(注 2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに資産運用業協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、6 月15日における邦貨換算レートは、1 アメリカ・ドル=160. 18 円です。
(注 3) 当期末における外貨建純資産（3, 247, 890千円）の投資信託財産総額（3, 790, 348千円）に対する比率は、85. 7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年 6 月15日現在

項 目	当 期 末
(A)資産	3, 767, 834, 104円
コール・ローン等	486, 255, 013
公社債（評価額）	2, 324, 956, 252
差入委託証拠金	956, 622, 839
(B)負債	489, 616, 436
未払金	489, 608, 296
その他未払費用	8, 140
(C)純資産総額（A－B）	3, 278, 217, 668
元本	971, 777, 669
次期繰越損益金	2, 306, 439, 999
(D)受益権総口数	971, 777, 669口
1 万口当り基準価額（C／D）	33, 734円

* 期首における元本額は950, 272, 094円、当作成期間中における追加設定元本額は364, 666, 367円、同解約元本額は343, 160, 792円です。
* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：
 ダイワ厳選コモディティ・ファンド（ダイワ投資一任専用） 971, 777, 669円
* 当期末の計算口数当りの純資産額は33, 734円です。

■損益の状況

当期 自2025年 6 月17日 至2026年 6 月15日

項 目	当 期
(A)配当等収益	102, 860, 648円
受取利息	74, 929, 588
その他収益金	27, 931, 060
(B)有価証券売買損益	233, 841, 474
売買益	233, 849, 310
売買損	△ 7, 836
(C)先物取引等損益	943, 560, 761
取引益	1, 609, 415, 741
取引損	△ 665, 854, 980
(D)その他費用	△ 194, 453
(E)当期損益金（A＋B＋C＋D）	1, 280, 068, 430
(F)前期繰越損益金	1, 103, 837, 144
(G)解約差損益金	△ 680, 099, 208
(H)追加信託差損益金	602, 633, 633
(I)合計（E＋F＋G＋H）	2, 306, 439, 999
次期繰越損益金（I）	2, 306, 439, 999

(注 1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
(注 2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。